

## 地域未来創造会議（菊池地域）議事概要

- 1 日時 令和7年2月18日（火）15:30～17:40
- 2 場所 菊池グランドホテル 阿蘇の間
- 3 出席者
  - (1) 市町村長  
江頭菊池市長、荒木合志市長、金田大津町長、吉本菊陽町長
  - (2) 県議会議員（オブザーバー）  
前川議員、高木議員、中村議員、池永議員、齋藤議員
  - (3) 県  
[本庁]  
木村知事、富永企画振興部長、阿南市町村課長 他  
[県北広域本部]  
永友本部長、齊藤総務部長 錦戸振興課長 他
- 4 議事内容
  - (1) 知事から ～菊池地域の未来への想い～
  - (2) 市町長から
  - (3) 意見交換
- 5 会議資料 別添のとおり

### 結果概要

会議ではくまもと版サイエンスパークの実現に向けた取組み、地下水保全の取組み、営農継続・農地減少対策、まちづくりに向けた取組み等が話し合われた。主な意見は次のとおり。

#### 1 くまもと版サイエンスパークの実現に向けた取組み

- ・ 原水駅、新駅間の区画整理事業をくまもと版サイエンスパークの一つの拠点として進めていきたい。また、広域的なBRTや自動運転などによる渋滞対策も必要、県と連携して取り組みたい。
- ・ サイエンスパークの一翼を担うため、関連企業や大学・研究機関等の誘致に取組みたいが、市単独では情報不足。県との情報共有や連携を強化する必要がある。
- ・ サイエンスパークの実現には、まちづくりやインフラにも関係してくる。現在、町の都市計画マスタープランを見直しており、県と情報交換していきたい。
- ・ サイエンスパークのビジョン（ゾーニング）を作ることは良いが、補助金等の支援策と併せて進めていかなければ実効性に乏しくなる。

#### 2 まちづくりに向けた取組み

- ・ TSMC進出により、オセロゲームのように望まない形での乱開発が一部で起きているため、県と市町が連携した開発誘導が必要。
- ・ 民間事業者の先行買収により地価の高騰が懸念されるため情報管理の徹底が必要。また、TSMC進出の効果を、全市町に波及させるためには、規制を緩和するような考え方も必要。

#### 3 地下水保全の取組み

- ・ 住民やマスコミの水への関心が高い。水質調査をやるにしても、他の自治体とやり方や公開方法などが異なると、それが新たな不安や疑念を生みかねない。地下水保全については、県による広域的、定期的、統一的な見解や情報管理、検査の実施等が不可欠ではないか。

- ・ 地下水の安全性について、住民の不安を払しょくするため、県と連携を図り、情報発信していく必要がある。

#### 4 営農継続・農地減少対策

- ・ 冬季湛水による農作物の作付けの減少が懸念される。畜産・酪農については、飼料作物用の農地の減少等の課題があり、企業進出と農業振興の両立に向け取り組む必要がある。

今回の会議内容を基に、次の事項について引き続き県と市町で連携して取り組んでいくこととなった。

- (1) サイエンスパーク及びまちづくりに関して、市町の方針を後押しするような態勢、取組みを検討
- (2) 地下水保全について、市町と連携を図りながら統一的な見解、情報管理について検討
- (3) 営農継続・農地減少対策について、様々な課題の解消に向けた取組みを検討

(以上)